

表7-4 ハーバード公衆衛生大学院の学生数の推移(1994-2002)

部門別

By Department (MPH Separated Below, Includes PhD):	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
BIO (Biostatistics)	60.5	64.5	64	54.5	60.5	62.5	61.5	74.5	84
CB (Cancer Biology)	18	14	13	6	4	2	1	1	0
CCB (Cancer Cell Biology)	2	2	2	2	2	1	2	4	19
DBS (Biological Science)	4	5	5	4	2	1	1	1	1
DBS (PHD-BPH)	12	18	23	28	30	36	44	46	7
EH (Environmental Health)	77	80	67	64.5	80	75	69.5	77	81.5
EPI (Epidemiology)	101.5	125	119	130	134	136.5	151	174.5	178
HPM (Health Policy Management)	84.5	81	76	75	76.5	84.5	94.5	45.5	51.5
HPM (Health Care Management)								28	38
HSB (Health Social Behavior)	52.5	57	64	86.5	84.5	72.5	73	81.5	78.5
IID (Immunology & Infectious Diseases)	1	1	1.5	1.5	4.5	7.5	7	7	28
MCH (Maternal Child Health)	30.5	32.5	25	26	28	28	23.5	23.5	33
NUT (Nutrition)	10	11	13.5	14.5	15.5	19.5	24.5	24.5	29.5
PIH (Population International Health)	67	63	61.5	53.5	42.5	44	47.5	45	59
Tox (Toxicology)	8	7	4	3	2	1	0	0	0
TPH	25.5	26	27.5	24	16	7	4	3	0
Grand Total	554	587	566	573	582	578	604	636	688

Students in dual departments are split 1/2 in each.

表7-5 最近10年間の学生数の推移(ハーバード大学)

MPHコンセンストレーション

MPH Degree Concentrations:	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
CLE (Clinical Effectiveness)	43	40	60	71	77	83	94	95	100
FCH (successor to PMC) (Family & Community Health)	0	0	5	37	39	46	44	36	38
PMC (retired concentration)	21	26	30	7	1	0	0	0	0
GEN (Genetics and Complex Disease)	1	0	0	0	0	0	0	0	0
HCM (Health Care Management)	42.5	41	63	57	47	49	54	38	43
IH (International Health)	45.5	39	48	40	43	56	76	78	72
LPH (Law & Public Health)	7	6	10	12	5	9	8	11	10
OEH (Occupational & Environmental Health)	8	15	11	14	12	12	4	9	12
QM (Quantitative medicine)	26	32	25	30	40	34	44	62	57
Grand Total	194	199	252	268	264	289	324	329	332
MOH Degree Concentration	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
OEH (Occupational & Environmental Health)	0	0	0	0	0	0	0	1	0

表 8 卒後の就職先 (Careers in Public Health)

Health Care Managers/Administrators

MS

- Director Adult Cardio-Thoracic, ICU (Yale Medical School)
- Director of Laboratories (St. John Hospital Center)
- Vice-President for Performance Improvement (Catholic Health Services of Long Island)

MPH

- Community Relations and Marketing Manager (Caritas Norwood Hospital)
- Director of Quality Improvement (Greater Brook Health Center)
- Director, Mental Health Disaster Planning (NYC Dept. of Health & Mental Hygiene)

Epidemiologists

MS

- Chief, General Internal Medicine (Tulane School of Medicine)
- Statistical Programmer (HSPH)
- Consultant/Assistant Professor (Royal Children's Hospital)

DS

- Assistant Epidemiologist (Ingenix Pharmaceutical Services)

Environmental Health Scientists

MS

- Radiation Specialist (US Navy)
- Research Fellow (NIOSH)
- Hazardous Substance Specialist (Japan MHLW)

MPH

- Resident in Aerospace Medicine (US Air Force)

DS

- Project Manager (Electric Power Research Institute)
- Consultant (Ingenix Pharmaceutical Services)

Biostatisticians

MS

- Biostatistician (Massachusetts General Hospital)
- Biostatistical Analyst (Averion Inc.)

DS

- Associate Research Scientist (New England Research Institutes)
- Senior Biostatistician (Alkermes, Inc.)

Specialist in Society, Human Development and Health

MS

- Prevention Specialist (Centers for Disease Control & Prevention)
- Researcher/Development Associate (Education Development Center)
- Project Manager, Pediatrics Training Initiative (Children's Hospital)

DS

- Assistant Professor of Health and Social Behavior (University of Alabama School of Public Health)
- Research Scientist (Merck & Co.)
- Epidemiology Intelligence Service Officer (Centers for Disease Control & Prevention)

International Health Specialist

- Deputy Director (Japan MHLW)
- Senior Medical Officer (Swaziland Ministry of Health & Social Welfare)

表 9

Boston 大学公衆衛生大学院
(Boston University School of Public Health)

1. Master's Degree in Public Health

Biostatistics
Environmental Health
Epidemiology
Health Law
Health Services
International Health
Maternal and Child Health
Social and Behavioral Sciences

2. Dual Degrees

JD/MPH
MBA/MPH
MD/MPH
MSW/MPH
MA (Medical Sciences)/MPH
BS/MPH
Certified Nurse Midwife/MPH
Peace Corps/MPH

3. Community Scholarship Program

公的機関あるいはNOPなどの公衆衛生分野で働く専門職で、少なくとも2年間以上の経験がある人に、パートタイムで授業料半額免除コースを提供

表 10

Boston 大学公衆衛生大学院における
最近10年間の変化

1. 学生数

	1993	1998	2003
Applicants	540	850	1,020
Students	669	771	742
Graduates	177	256	276

2. 教員数

	1993	1998	2003
Full Time	58	71	143
Female	45%	45%	53%
Minority	5%	4%	9%

3. 大学の収入

	1993	1998	2003
教育			
授業料	\$5,027,680	\$10,170,645	\$13,821,780
その他	4483,535	\$464,625	\$1,233,315
研究			
直接経費	\$6,581,305	\$12,902,630	\$24,136,925
間接経費	\$1,233,835	\$2,489,885	\$4,492,990
合計	\$13,326,355	\$26,027,785	\$43,685,010

表 11

タフツ大学医学部の MPH プログラム (Tufts School of Medicine Graduate Programs in Public Health)

1. MPH TRACKS

Master of Science in Nutrition/MPH

MD/MPH and DVM/MPH

Juris Doctor/MPH

Bachelor's/MPH

MD/MBA in Health Management

2. MPH Program の概要

- (1) 医学部の Department of Family Medicine and Community Health が運営
- (2) 仕事を持つ社会人のニーズにあう形で多くのクラスは午後 6 時以降から 9 時頃まで。5 年まで延長可 (フルタイムの学生は通常 2 年)
- (3) MD/MPH、DVM/MPH トラックの学生は、火曜日午後 1:30~5:30 (半日) に加えて夕方 18:00~21:00 のコースを 4 年に渡って取得する。
- (4) すべての学生は公衆衛生の基礎 (疫学、生物統計学、環境保健、社会行動科学、ヘルス・サービスおよび公衆衛生政策) について教育される。
- (5) 最終学期は、実際にコミュニティーベースで公衆衛生の問題解決ができるように「応用 (the Applied Learning Experience)」と「フィールド研究」に当てられる。
- (6) MPH student (joint degree program を除く) は、5 つの concentration (分野) から一つ選ぶ。
 - Environmental Health
 - Epidemiology and Biostatistics
 - Health Communication
 - Health Services Management and Policy
 - Nutrition

3. Degree Requirements (2 本だて)

- 1) 48 単位 (公衆衛生の専門的または教育的経験がない、または少ない者)
- 2) 36 単位 (医、獣医、歯などの大学卒業者か、相当の専門的または学術的経験があると入学審査委員会が認めた者)

厚生労働科学研究費補助金（がん予防等健康科学総合研究事業）

分担研究報告書

パブリックヘルスマインド養成に関する研究（社会医学サマーセミナー）

分担研究者 中村 桂子（東京医科歯科大学助教授）

研究要旨 医学部・医科大学の学生に、社会医学の研究と実践についての理解を深めさせ、パブリックヘルスマインドの養成をはかり、社会医学（衛生学公衆衛生学）を専攻する動機づけを試みるために、社会医学サマーセミナーを神戸において開催した。全国から 51 名の学生の参加があり、衛生学公衆衛生学教育協議会の教授陣および厚生労働省からの特別講師が講義・特別講演を行い、学生の討議に参加した。社会医学サマーセミナーに対する参加学生の評価結果は、パブリックヘルスの多様な課題を横断的に傾聴する機会が貴重な体験であること、チュートリアル方式のグループディスカッションの有用性を示した。これらの要素を含む教育手法が、パブリックヘルスマインド養成に効果をもたらすことが明らかになった。

A. 研究目的

医学部・医科大学学生を対象として社会医学サマーセミナーを実施し、公衆衛生志向臨床医と公衆衛生専門家専攻を選択するパブリックヘルスマインドの養成をはかり、チュートリアル教育の効果について総合評価を行うことを目的とした。

B, C. 第 9 回社会医学サマーセミナー（研究方法・研究結果）

平成 15 年 8 月 25 日～27 日に神戸市において、兵庫医科大学公衆衛生学小泉直子教授を世話人として開催した（開催時の所属は食品安全委員会委員）。参加定員数 50 名で参加募集を行なったが、定員数を超える応募があり、選考の結果 51 名の参加学生数を得た。

衛生学公衆衛生学教育協議会の 17 名の教授が講師として参加した。さらに、厚生労働省から特別講師 2 名にご参加いただいた。セミナー事務局・協議会事務局の 8 名を合わせて、参加

者総数は 79 名であった。セミナーの内容は、全体のテーマとして「女性と医療・防災と対策を考える」を設定し、講義と討論、グループ討議学生発表を含む 6 つのセッション、特別講演、人と防災未来センター見学で構成した。

第 1 セッションの講義は「社会医学のめざすもの（森本兼曇、大阪大学）」、「フィールド調査の光と影（吉村健清、産業医科大学）」、「E BMにおける疫学の役割（山口直人、東京女子医科大学）」、「バリアフリーとインフォームドコンセントを体感的に学ぶ実験的視覚障害体験（守山正樹、福岡大学）」の 4 つであった。第 2 セッションの講義は「シックハウス症候群（都市化とアレルギー）（烏帽子田彰、広島大学）」、「食品衛生と健康（香山不二雄、自治医科大学）」、「生活習慣病予防からみたセレン（小山洋、群馬大学）」の 3 つであった。第 3 セッションでは、参加者の交流をはかる目的で、連句の紹介（清水弘之、岐阜大学）と参加者による実作と評価を行った。第 4 セッションの講義

は「臨床予防医学のすすめ（圓藤吟史、大阪立大学）」、「国際保健の現状と将来（鈴木宏、新潟大）」、「WHOへの道（玉城英彦、北海道大）」、「女性医師と医療（山縣然太朗、山梨大）」の4つであった。

第5セッションのグループ討論では、学生は6つのグループに別れ、それぞれのグループには2～4名の教授および特別講師を配置し、学生が教授・特別講師と直接討論する機会を設けた。第6セッションの学生発表・全体討論では、それぞれのグループが討論の成果を発表した。6つのグループの発表テーマは、「疫学調査」、「食品の安全性」、「国際保健」、「生活習慣病」、「女性医師と医療」及び「政策立案・行政（医療行政と政策立案～福島県を例にとって～）」であった。これらの学生発表の内容は第9回社会医学サマーセミナー報告書に掲載した。

特別講演では、神戸市保健福祉局参事梅田珠見先生（厚生労働省より出向中）に「厚生労働行政について」と題してご講演いただいた。また、厚生労働省大臣官房厚生科学課主任科学技術調整官迫井正深先生にはグループ討論、学生発表・全体討論にご参加いただき、適切なコメントをいただいた。

参加した教授と学生の各々は、セミナー参加の感想あるいは社会医学サマーセミナーへの提言を報告書として提出した。これらの報告はすべて「第9回社会医学サマーセミナー報告書」に掲載した。ほとんどの学生が社会医学セミナーの意義を高く評価しており、今後の継続を強く希望していた。特に、いろいろな大学の教授の話をまとめて聞く機会を提供するものとして、また、全国の医学生と社会医学に関連した様々な事項について討論できる場として、特に意義あるものと考えていた。一方、セミナーの方法については改善案がいくつか示されている。有用と思われるものとしては、「グループ討論の時間を増やす」、「あらかじめ学習テーマを提示し、事前に準備をすることで、グループ討論を充実させる」などがあった。

また、今回のセミナーではセミナーを通じて

社会医学に対する学生の意識がどのように変化したかを調査するため、サマーセミナー開始前と終了後にアンケートを実施した。アンケート用紙および集計結果は資料に示した。セミナーを通じて参加学生の関心が増した分野は、衛生行政、国際保健医療、産業保健、母子保健等であった。将来における社会医学との関わりについては、セミナーを通じポジティブな回答をする学生の割合が増加した。特に、「厚生労働行政での政策立案に関わりたい」、「社会医学「衛生学公衆衛生学」の研究をしたい」という項目についてポジティブな回答をする学生の増加が顕著であった。

（倫理面への配慮）

本研究は、衛生学公衆衛生学の卒前教育のあり方について検討し、パブリックヘルスマインドを養成する目的で「社会医学セミナー」のプログラムを実施し、その評価を行ったものである。セミナーの趣旨とその評価に参加することについて、参加者にあらかじめ説明し、同意をした者が参加した。セミナーの評価にあたっては、グループインタビューならびに質問紙法により行った。評価結果を匿名情報として取り扱い、分析を行った。以上に基づき、パブリックヘルスマインドを養成する教育手法について提言を行った。

D. 考察

社会医学の多様な研究と実践を学生に理解してもらうことは、パブリックヘルスマインドを高める上で重要なことである。公衆衛生学研究ならびに行政の実践活動に基づく話題を集中的に傾聴する機会、医学部学生が、パブリックヘルスの広範囲のリサーチニーズおよび行政ニーズの広がり認識し、多様なアプローチが存在することを理解することに役だった。さらに、チュートリアル形式で、個々の学生の多様な関心に適した問題提起を行うことは、パブリックヘルスマインドを養成する効果が高いと考えられた。

今後の課題として、特定課題について、情報

を収集し、それらの情報をパブリックヘルスの観点から解釈する能力を養成するためには、学生に事前に課題を提示して行う教育手法の効果について検討することも必要と考えられた。

E. 結論

社会医学サマーセミナーに対する参加学生の評価結果は、パブリックヘルスの多様な課題を横断的に傾聴する機会が貴重な体験であること、チュートリアル方式のグループディスカッションの有用性を示した。これらの要素を含む教育手法が、パブリックヘルスマインド養成に効果をもたらすことが明らかになった。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

第9回社会医学サマーセミナー報告書「女性と医療・防災と対策を考える」 衛生学公衆衛生学教育協議会 2003:pp.67

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

(資 料)

サマーセミナー参加学生へのアンケート

事前アンケート

VII. 以下について、あなたの考えはあてはまりますか。「とてもよくあてはまる」(1)から「全くあてはまらない」(4)まで、当てはまるものに○を付けて下さい。

	とてもよくあてはまる。	ややあてはまる。	あまりあてはまらない。	全くあてはまらない。
1. 国や地方自治体の厚生行政で政策の立案などに関わってみたい。	1	2	3	4
2. 地域の保健所や保健センターで医師として働いてみたい。	1	2	3	4
3. 途上国での医療保健活動などに参加したい。	1	2	3	4
4. 基礎的な研究よりも臨床で働くことが向いている。	1	2	3	4
5. 将来、社会医学(衛生学・公衆衛生学等)の研究を行ってみたい。	1	2	3	4
6. 地域医療・プライマリケアに従事したい。	1	2	3	4
7. 国際機関などでの仕事をしてみたい。	1	2	3	4
8. 最先端の科学技術を使った仕事をしたい。	1	2	3	4
9. 産業医として仕事をしてみたい。	1	2	3	4
10. ひとりひとりの患者さんと向き合っている仕事につきたい。	1	2	3	4

VIII. 今回の社会医学サマーセミナーでは、講師の先生方のご専門にもとづいて6つのグループに分かれ、社会医学の新たな取り組みについてディスカッションを行ってまいります。興味があるテーマに○をつけ(いくつでも可)、その内容を書いてください。

1. 疫学調査 []
2. 食品の安全性 []
3. 国際保健 []
4. 生活習慣病 []
5. 女性と医療 []
6. 政策立案・行政 []

事後アンケート

氏名 _____

Ⅰ. 今回の社会医学サマーセミナーは、次のことに役立ちましたか。「大いに役立った」(1)から「役立たなかった」(4)まで、当てはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

	大いに役立った。	役立った。	どちらとも言えない。	役立たなかった。
1. 社会医学全体に対する理解	1	2	3	4
2. 厚生労働行政に対する理解と関心の向上	1	2	3	4
3. 社会医学における新しい知識の習得	1	2	3	4
4. 社会医学の領域の研究についての理解	1	2	3	4
5. 他大学の学生との交流	1	2	3	4
6. 他大学の教官との交流	1	2	3	4
7. 将来の進路の決定	1	2	3	4
8. 防災についての理解	1	2	3	4

* その他、今回のサマーセミナーで役立ったことについて自由にお書き下さい。

Ⅱ. サマーセミナーのプログラムとしてグループワークを行いました。これについてどう思いますか。当てはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

- | | |
|---------------|------------|
| 1. とてもよかった。 | 2. よかった。 |
| 3. どちらとも言えない。 | 4. よくなかった。 |

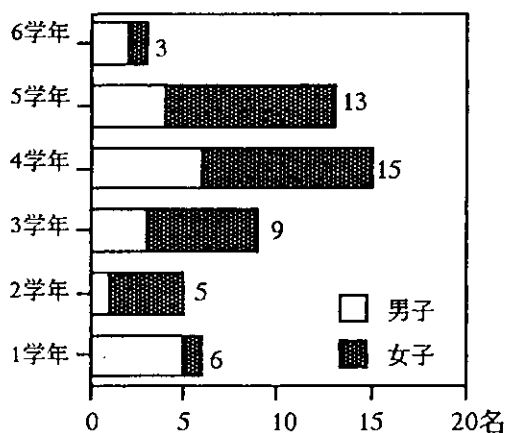
* その他、グループワークについて、感想等自由にお書き下さい。

サマーセミナー参加学生に実施したアンケートの集計結果

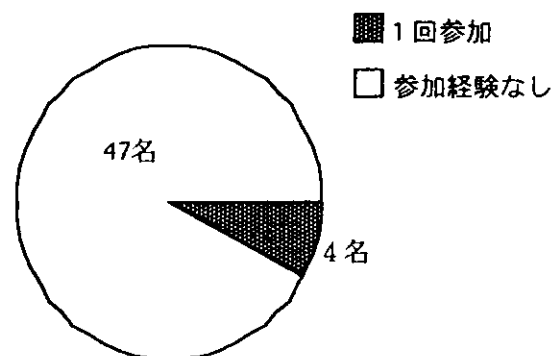
セミナーを通じて社会医学に対する学生の意識がどのように変化したかを調査するためにアンケートを実施いたしました。アンケートは、サマーセミナー開始前と終了時に回答してもらいました。回答者は、開始前49名/51名中、終了時49名/51名中でした。

1. 学生の構成

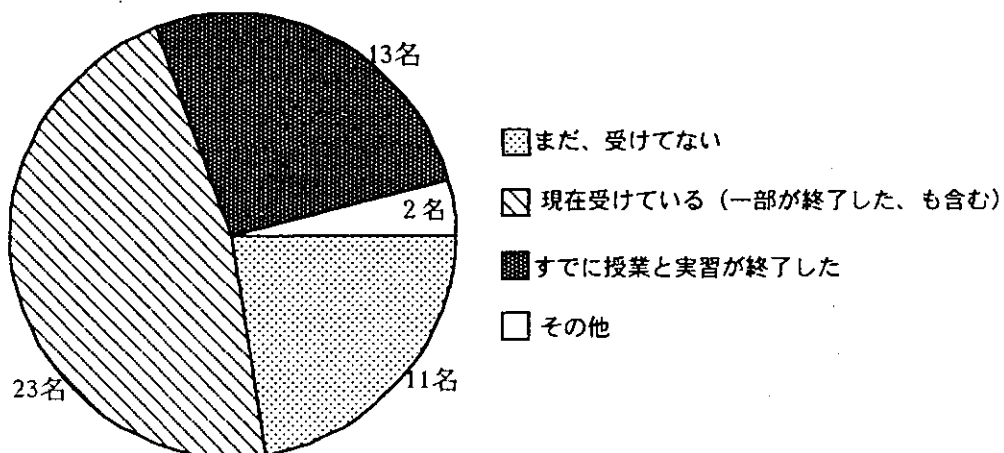
(1) 参加学生の学年



(2) 参加学生の過去セミナー参加回数



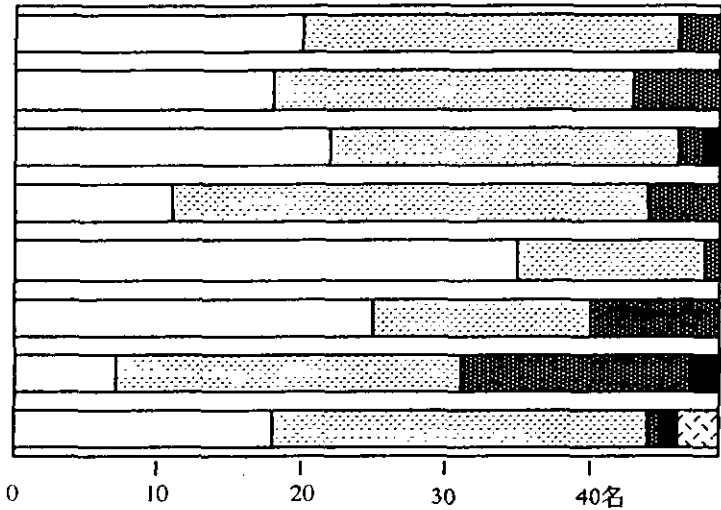
(3) 社会医学の授業の受講状況



2. セミナーを通して学生の意識変化の状況

(1) セミナーは役だったか？

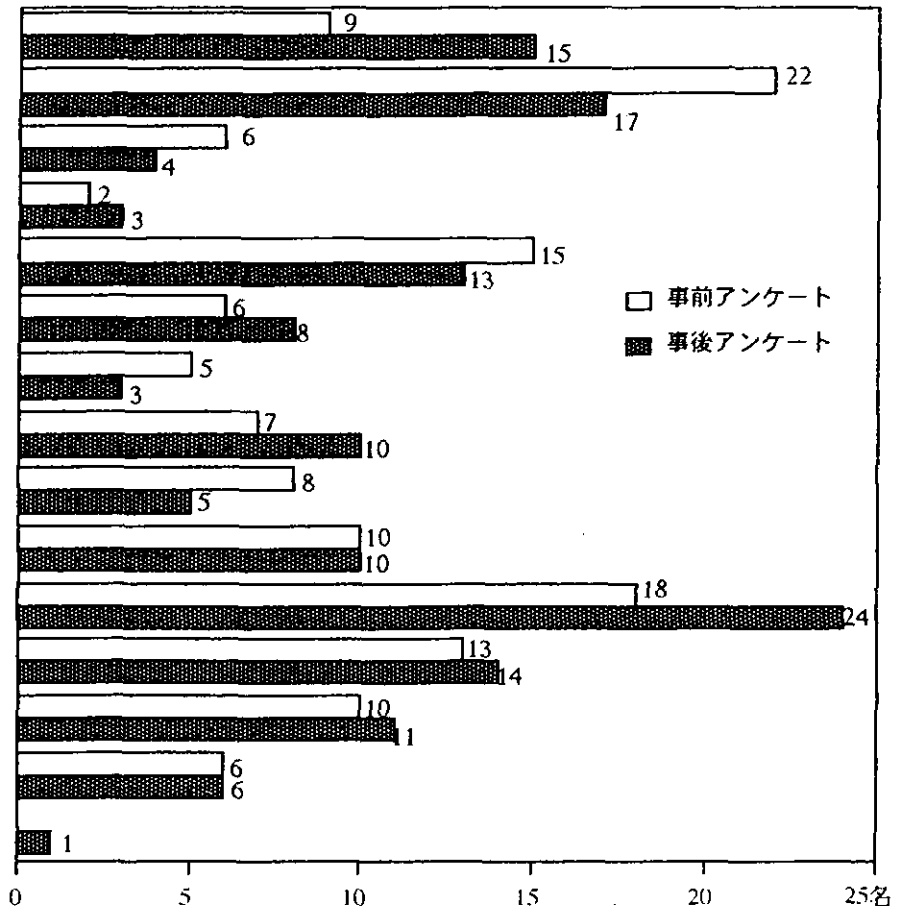
- ・社会医学全体に対する理解
- ・厚生労働行政に対する理解と関心の向上
- ・社会医学における新しい知識の習得
- ・社会医学の領域の研究についての理解
- ・多大学の学生との交流
- ・他大学の教官との交流
- ・将来進路の決定
- ・防災についての理解



□ 大いに役立った ▨ 役だった ▩ どちらともいえない ■ 役立たなかった ⊞ その他

(2) 社会医学の中で関心のある分野は？

- 1) 衛生行政
- 2) 疾病予防・健康増進
- 3) 環境保健
- 4) 食品衛生
- 5) 地域保健
- 6) 母子保健
- 7) 学校保健
- 8) 産業保健
- 9) 老人保健・福祉
- 10) 精神保健
- 11) 国際保健医療
- 12) 医療制度
- 13) 病院管理・医療経済
- 14) 疫学
- 15) その他

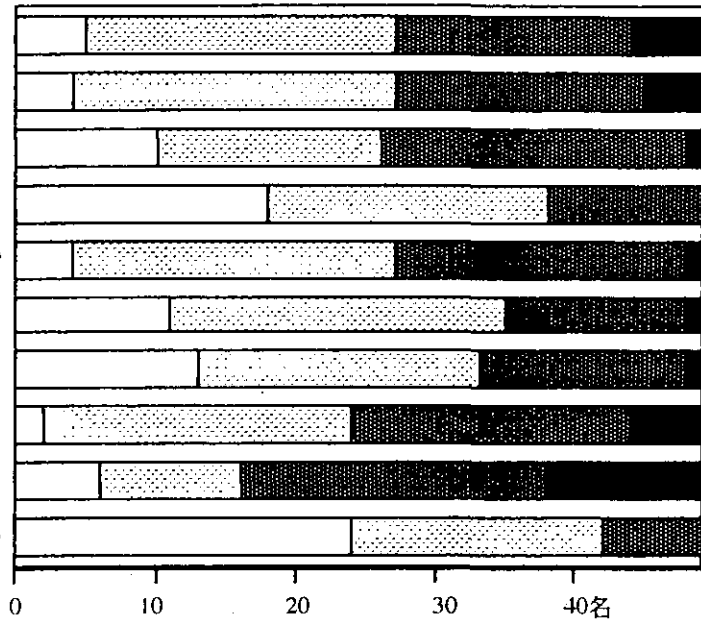


(3) 将来は？

セミナーの開始前と終了後に将来に関して同じ質問をしました。

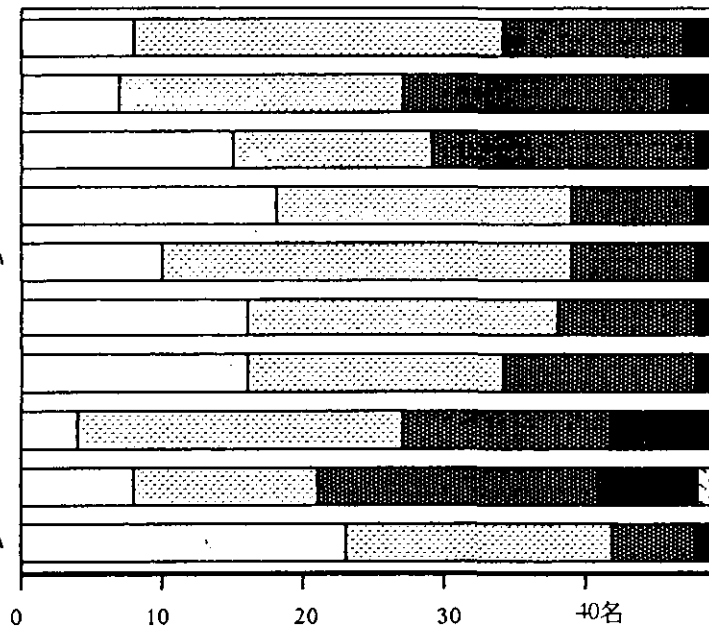
事前アンケートより

- ・厚生労働行政での政策立案に関わりたい
- ・地域の保健所や保健センターで働きたい
- ・途上国での医療保健活動等に参加したい
- ・臨床分野で働きたい
- ・社会医学「衛生学公衆衛生学」の研究をしたい
- ・地域医療・プライマリケアに従事したい
- ・国際機関等で働きたい
- ・最先端の科学技術を使った仕事がしたい
- ・産業医として働きたい
- ・ひとりひとりの患者と向かい合う仕事をしたい



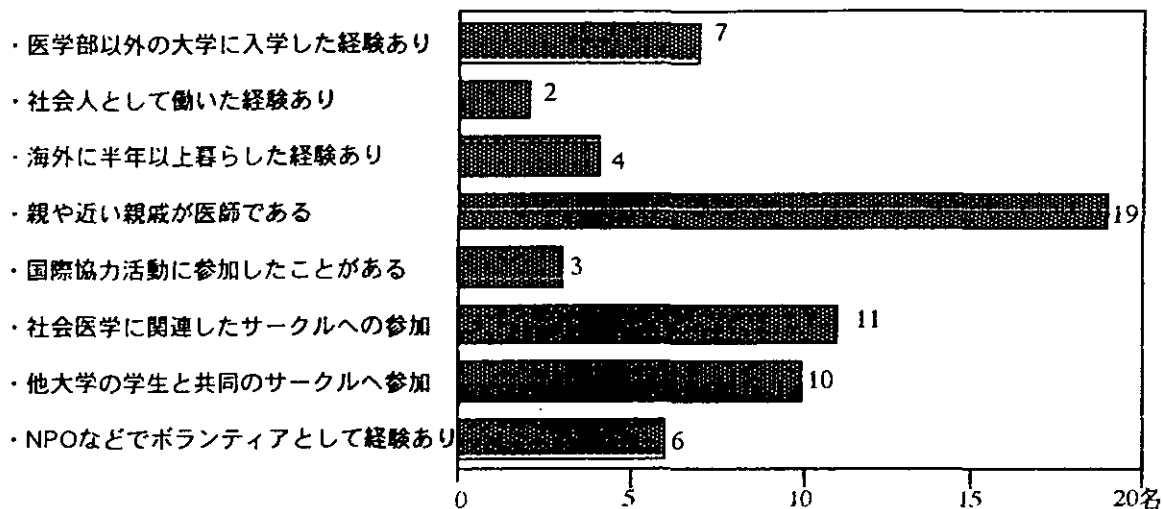
事後アンケートより

- ・厚生労働行政での政策立案に関わりたい
- ・地域の保健所や保健センターで働きたい
- ・途上国での医療保健活動等に参加したい
- ・臨床分野で働きたい
- ・社会医学「衛生学公衆衛生学」の研究をしたい
- ・地域医療・プライマリケアに従事したい
- ・国際機関等で働きたい
- ・最先端の科学技術を使った仕事がしたい
- ・産業医として働きたい
- ・ひとりひとりの患者と向かい合う仕事をしたい

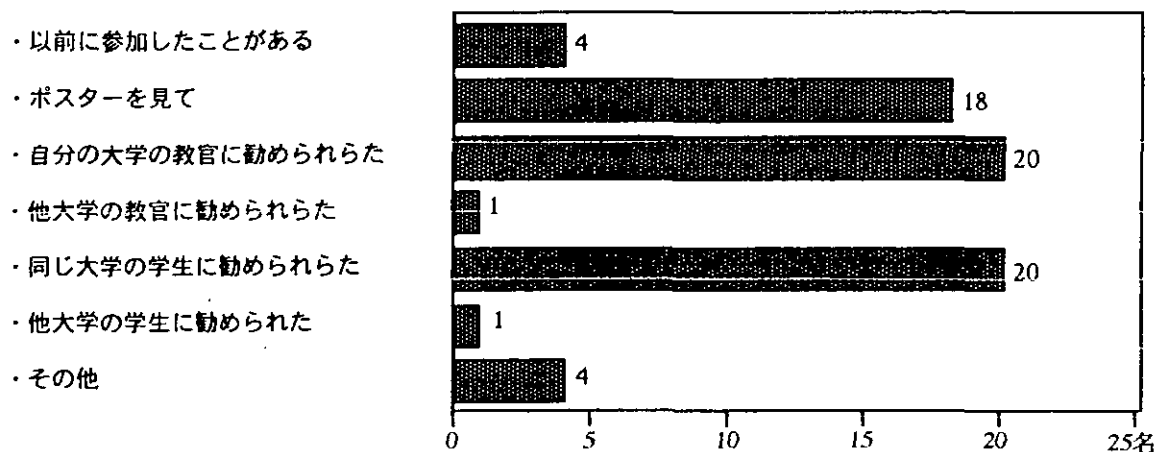


□ とてもしたい ▨ ややしたい ▩ あまりしたくない ■ 全くしたくない ▩ その他

(4) 参加学生の過去の活動等 (複数選択可)



(5) 参加のきっかけ (複数選択可)



(6) 参加の目的 (3つ選択可)

